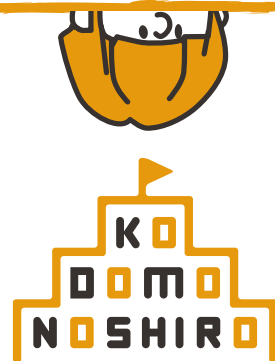


地域に根差して50年

# 鎌田段ボール工業株式会社

私たちの生活にとっても身近な段ボール。その製造工場が能代にあるのを知っているかな。「鎌田段ボール工業株式会社」は市内に工場を建ててから50年になる会社で、昨年、県企業誘致推進協議会から永年立地企業感謝状が贈られたよ。「段ボールってどうやって作られているんだろう?」。そんな素朴な疑問を胸に工場を見学。取材の中で見つけたいろいろな「へ〜!」をみんなにも紹介するよ。



## 「広報のしろ特別編集」お子さんと一緒にご覧ください こどもものしろ

vol.17

『こどもものしろ』は能代の未来を切り開く子どもたちに向けた広報です。もっと、ずっと、能代を愛して欲しいから、能代の色んなことをお知らせしていきます。

### 鎌田段ボール工業とは?

昭和22年に現在の岩手県奥州市で創業。秋田工場は、45年に現在地に建設されました。

「もともとは田んぼしかなかった場所。段ボール作りに欠かせない水が豊富なところや、交通の便が良く配送に適していたところがこの場所に工場を作った理由だと思えます」と安保史彦工場長が教えてくれました。

段ボール製品の製造工程は「製紙工程」「貼合工程」「製箱工程」の3つに分けられますが、秋田工場では段ボール箱を作る製箱工程を行っています。一日に製造する段ボール箱は、最大2万5000枚に上ります。

主に、青果物や医療品などの

規格に合わせた段ボール製品を

オーダーメイドで製造。「木都のしろ」らしく、天井板といった木製品をこん包する製品も多いそうです。

「段ボール製品はほぼ100%がリサイクル可能。環境に優しい製品です」と安保工場長。「みなさんの身の回りに必ずある物だと思っているのでリサイクルを心がけてほしいです」と話していました。



鎌田段ボール工業株式会社  
秋田工場 工場長  
安保 史彦さん

# 工場見学の前に、 段ボールの基本情報を学ぼう

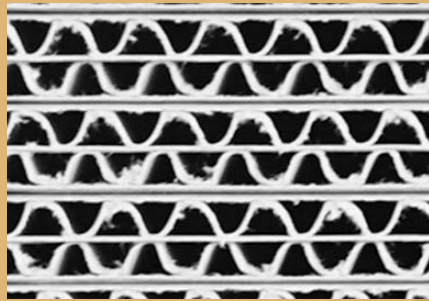


## 段ボールの材料は段ボール

段ボールや段ボール箱の元となる紙のことを「段ボール原紙」といいます。段ボール原紙は、木材などの植物繊維から作られるパルプを原料とし、ほぼ100%がリサイクル可能です。そのため段ボール原紙の主原料には、回収された使用済み段ボールが90%以上含まれています。

## 断面にある「波」、君の名は

段ボールは表ライナ、中しん、裏ライナの3枚の段ボール原紙を貼り合わせて作られます。波状になっているのが中央の中しんです。段ボールの強度などに関わる大切なパーツです。この中しんの波は「フルート」と呼ばれ、高さにはA（5mm）、B（3mm）などの種類があります。段ボールの強度を高めるため、AとBを重ねたWフルートもあります。



## このマーク見たことある？



リサイクルできる段ボールには、世界共通のリサイクルマークが印刷されています。デザインやサイズに規定はありますが、色や表示場所は会社によって異なるそうです。

段ボール製造会社にも、自分たちの製品であることを示すマークがあります。鎌田段ボール工業のマークは写真右です。JAに関連する製品の段ボール箱に印字されているので探してみてください。

← 次ページから工場見学が始まるよ！